

令和4年度決算 宮崎市一般会計等財務書類のポイント

《令和4年度決算の特徴》

- ◆流動資産(現金預金)が減少したため、資産合計は約24億円減少し、約5,368億円となりました。(貸借対照表より)
- ◆R3年度の新型コロナウイルス感染症拡大防止協力金支給事業等の完了により、市民一人当たりの行政コストは23千円減少し、401千円となりました。(行政コスト計算書より)
- ◆年度末資金残高は約63億円減少したものの、令和4年度は約46億円が確保されていることから健全性が確保されています。(資金収支計算書より)

◎貸借対照表

会計年度末時点(出納整理期間中の増減を含む)における市の資産・負債等の状況を明らかにします。

単位:百万円

科目名	令和4年度	令和3年度	差額	科目名	令和4年度	令和3年度	差額
資産の部				負債の部			
固定資産	513,770	513,213	557	固定負債	169,804	175,454	△ 5,650
有形固定資産	451,530	454,197	△ 2,667	地方債	154,013	159,658	△ 5,645
事業用資産	222,503	224,722	△ 2,219	流動負債	20,783	20,123	660
インフラ資産	227,300	227,741	△ 440	1年内償還予定地方債	17,501	17,012	489
投資その他の資産	61,651	58,610	3,040	負債合計	190,588	195,577	△ 4,990
投資及び出資金	33,810	33,094	716	純資産の部			
基金	25,048	23,848	1,200	固定資産等形成分	530,027	526,267	3,760
流動資産	23,041	25,995	△ 2,954	余剰分(不足分)	△ 183,804	△ 182,636	△ 1,167
現金預金	6,190	12,379	△ 6,190	純資産合計	346,223	343,631	2,593
基金	16,219	13,046	3,173	負債及び純資産合計	536,811	539,208	△ 2,397
資産合計	536,811	539,208	△ 2,397				

令和4年度末における資産合計は約5,368億円、対して負債合計は約1,906億円(35.5%)、純資産合計は約3,462億円(64.5%)となりました。令和3年度と比較すると、宮崎市小児診療所等の解体や西松小路団地跡地の売却などの他、既存建物等の減価償却により有形固定資産が減少したことや、地方交付税などの減により、現金預金が減少したため、資産合計は約24億円減少しました。負債及び純資産合計は、負債が地方債の償還等により約50億円減少し、純資産が約26億円増えたことにより、約24億円減少となりました。

《参考指標》

(1)資産老朽化比率

【減価償却累計額÷(有形固定資産-土地等の非償却資産+減価償却累計額)】
63.9%(1.4ポイント上昇) [R03決算:62.5%]

(3)将来世代負担比率

【地方債残高(臨時財政対策債等は除く)÷有形・無形固定資産】
23.6%(0.4ポイント改善) [R03決算:24.0%]

(2)市民一人当たり負債額【負債合計÷住民基本台帳人口】

477千円/人(11千円減少) [R03決算:488千円/人]

住基人口(1,342人減少)
399,576人(令和5年1月1日)
400,918人(令和4年1月1日)

(4)市民一人当たりの行政コスト【純行政コスト÷住民基本台帳人口】

401千円/人(23千円減少) [R03決算:424千円/人]

(5)受益者負担の割合【経常収益÷経常費用】

4.5%(0.2%減少) [R03決算:4.7%]

◎資金収支計算書

民間のキャッシュフロー計算書に相当。

現金収支を「業務活動収支」、「投資活動収支」及び「財務活動収支」の3つの区分に分けて表示したものです。

単位:百万円

科目名	令和4年度	令和3年度	差額
【業務活動収支】			
業務活動収支	13,903	23,552	△ 9,649
【投資活動収支】			
投資活動収支	△ 14,758	△ 15,530	772
【財務活動収支】			
財務活動収支	△ 5,481	△ 3,209	△ 2,272
本年度資金収支額	△ 6,336	4,813	△ 11,149
前年度末資金残高	10,944	6,131	4,813
本年度末資金残高	4,608	10,944	△ 6,336
前年度末歳計外現金残高	1,435	1,413	22
本年度歳計外現金増減額	146	22	124
本年度末歳計外現金残高	1,581	1,435	146
本年度末現金預金残高	6,190	12,379	△ 6,190

令和4年度の資金収支は、令和3年度と比較すると業務活動収支が約96億円の減、投資活動収支が約8億円の増、財務活動収支が約23億円の減となりました。

この状況は、業務活動から得た収入で公共施設の整備や基金の積立て等の資産形成が活発に行われた状況を表しています。

また、財務活動収支がマイナスであることは、地方債の償還が進んでいることを表しています。

本年度資金収支額が、約64億円のマイナスとなりましたが、約46億円の資金が確保されていることから健全性に問題はないものと考えられます。

◎行政コスト計算書

民間の損益計算書に相当。当該会計年度中の行政活動のうち、資産形成以外に使われた費用(コスト)と、その費用の一部として充てられた使用料や手数料などの関係を表します。

単位:百万円

科目名	令和4年度	令和3年度	差額
経常費用	151,271	151,111	161
業務費用	65,384	64,278	1,106
人件費	21,993	21,859	134
物件費等	42,461	41,537	925
減価償却費	14,873	14,368	505
移転費用	85,887	86,833	△ 946
補助金等	33,509	34,603	△ 1,094
社会保障給付	39,189	39,349	△ 161
経常収益	6,862	7,068	△ 205
使用料及び手数料	3,998	3,934	64
純経常行政コスト	144,409	144,043	366
臨時損失	16,994	26,079	△ 9,084
臨時利益	981	240	741
純行政コスト	160,423	169,882	△ 9,459

経常費用は約2億円増加の約1,513億円、経常収益は約2億円減少し約69億円、純経常行政コストは約4億円増加し、約1,444億円となりました。臨時損失はR3年度の新型コロナウイルス感染症拡大防止協力金支給事業等の完了により、約91億円減の約170億円となりました。これに臨時利益を加えた純行政コストは約1,604億円となり、約95億円の減少となりました。

◎純資産変動計算書

貸借対照表の純資産の部の変動状況を示したものです。純資産の増減要因を明らかにします。

単位:百万円

科目名	令和4年度	令和3年度	差額
前年度末純資産残高	343,631	326,279	17,352
純行政コスト(△)	△ 160,423	△ 169,882	9,459
財源	163,651	180,431	△ 16,780
税収等	100,854	97,001	3,852
国県等補助金	62,798	83,429	△ 20,632
本年度差額	3,229	10,549	△ 7,320
固定資産等の変動(内部変動)			
資産評価差額	6	△ 7	13
無償所管換等	231	6,818	△ 6,586
その他	△ 873	△ 7	△ 866
本年度純資産変動額	2,593	17,352	△ 14,760
本年度末純資産残高	346,223	343,631	2,593

令和4年度は約1,604億円の純行政コストを税収や国県等補助金等の財源でまかない約32億円が残り、これに無償所管換等の増減を加えた本年度末純資産残高は約3,462億円となり、令和3年度末に比べ純資産残高は約26億円増加しました。